

2021年12月15日
一般社団法人 日本船主協会

池田会長による防衛省訪問について

12月14日、池田会長、友田副会長、森重理事長、日本郵船 小山専務執行役員、川崎汽船 綾専務執行役員、商船三井 谷本執行役員ほか2名が防衛省を訪れ、防衛省統合幕僚長、海上幕僚長に対し、海賊対処行動に対する感謝の意を伝えました。

日本船主協会では2019年まではジブチ共和国に代表団を送り、派遣中の護衛艦、航空隊並びに支援隊拠点を訪問のうえ、感謝のレセプションを、また、東京においても「海賊対処行動感謝の集い」を開催し、感謝の意を伝えておりました。

2020年からは、新型コロナウイルス禍により、これら活動が実施できず、代わりに、訪問を行っているものです。

初めに、池田会長より我が国外航海運業界を代表し、自衛隊隊員の皆様が取り組む海賊対処行動に対する謝意を、山崎統合幕僚長にお伝えしました。

続いて、アデン湾の海賊対処行動に従事された江澤齊高2等海佐（37次隊 ありあけ艦長）、西宮友樹2等海佐（43次航空隊司令）に感謝状と盾を贈呈いたしました。

なお、今回参加いただけなかった部隊指揮官への感謝状等は統合幕僚長にお預けしました。

統合幕僚長からは来訪への謝意に続き、「自衛隊の活動に対する商船からの期待感がしっかりと伝わっている。灼熱の現場である上に、コロナウイルス対策上、寄港地での上陸もできず、補給物資の制約があるなかで、海運界からの感謝の言葉は、期待の現れと受け止め、国益に寄与している実感が持てる。自衛隊が引き続き任務を継続する源泉である。」と、引き続き行動への熱意を示されました。

また、山村海上幕僚長からは、自衛艦に対するタンカーからの旗による挨拶があったことに触れ、「海外で心が通ずること」は隊員の励みであると紹介されました。

現場で指揮を執った江澤2等海佐、西宮2等海佐からは、漁船と疑わしいボートとの識別方法など活動の実際に加え、急患への対応を行ったこと、本国を長期間離れる隊員と家族のケアを行ったこと、航空機から無線電話で呼びかけたところ本船からの感謝の応答があり、隊員の励みになったことなど、現場ならではの貴重な体験談が紹介されました。

訪問団からは、洋上護衛に加えて上空からの警戒監視があることで商船側の安全安心の

醸成に計り知れない効果を及ぼしていることをお伝えしました。

最後に、会長より、次年度は是非、ジブチ訪問および感謝の集いで多くの方に謝意を伝え、交流を深めたいとお伝えしました。

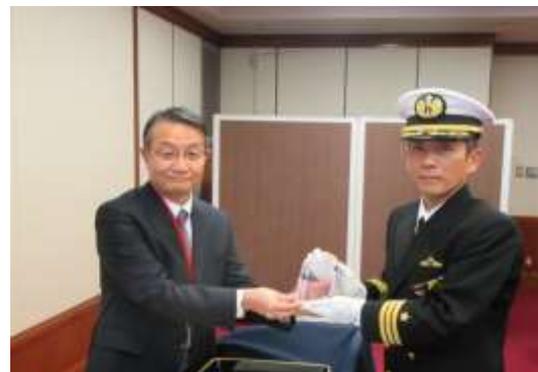


前列左から 鋤先首席参事官、山村海上幕僚長、山崎統合幕僚長、西宮 2 等海佐、
江澤 2 等海佐、池田会長、友田副会長、森重理事長

後列左から 櫻井運用支援課長、吉川運用 2 課長、日本郵船小山専務、川崎汽船綾専務、
商船三井谷本執行役員、大森常務理事、日本船主協会藤橋会長秘書



感謝状を西宮 2 等海佐に手交する池田会長



盾を江澤 2 等海佐に手交する池田会長